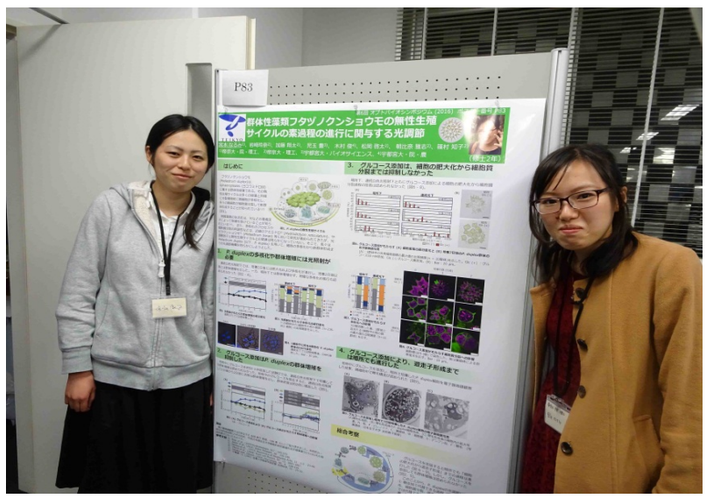
バイオサイエンス学科　学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	宇都宮大学 オプト-バイオシンポジウム 会場：宇都宮大学 (陽東キャンパス)
演題名	群体性緑藻フタヅノクンショウモの無性生殖サイクルの素過程の進行に関与する光調節
発表者	○宮本なるみ*[1]、岩崎玲奈★[2]、加藤翔太**[2]、児玉豊[3]、木村俊[4]、松岡啓太[2]、 朝比奈雅志[2]、篠村知子[2]（植物分子細胞学研究室） [1]帝京大・院・理工、[2]帝京大・理工、[3]宇都宮大・バイオサイエンス、[4]宇都宮大・院・農
内容	群体性緑藻クンショウモは、多核化、細胞質分裂、遊走子放出を経て新群体を形成します。本発表では、培地に糖を添加すれば暗所でも進行する「肥大化」から「核分裂」の過程を定量的に明らかにした結果を報告しました。 本研究の一部は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」、および科学研究費補助金(基盤研究C)の支援を受け、H28年度の本研究室の卒研生（★）、大学院生（*）および博士研究員（**）も参加して活発な研究交流を実施しました。
関連画像